

7、参考資料

馬知小学校における少人数学級

本年度から馬知小学校では、6年生と4年生の算数科において「少人数学級」を実施した。とくに指導の手引きがあるわけでもなく、とまどいながらも4月よりスタートした。平成16年には、完全実施させることになっている。この取り組みの様子を紹介する。

学級編成について

能力別の学級ではなく、A組、B組の算数の力が平均するように分けた。4月当初は、表現力や数学的な考えの持てる子など細かな能力まで担任がつかみきれず、昨年度の指導要録の評価を参考にして編成した。学習能力の指導援助が必要な子を同じように分けつつもりだが、学習にむかうまでに援助の必要な児童も同じように分けられるとよかった。

学習形態について

学習形態としては、A組を学級担任が持ち、B組を少人数学級担当である水野直美先生が受け持つ。空き教室を利用して、少人数教室（北舎三階）を作り、B組はその教室で授業を行う。進度の差がでないよう事前事後の打ち合わせをできるだけ行うようにしている。

また、テスト直しなど理解度の差が明らかな学習状況の場合は、能力別に分け、2人で、要援助児童の指導を行うこともある。他にも、算数的活動を取り入れた「運動場に円を描く」授業では、TT形式で行った。

週時数について

本年度の第4学年における算数科の年間標準授業時数は、150時間である。週あたりの時数は4時間と+になる。よって、週に4時間は、少人数学級の時間として位置づけ、隔週に1時間程度の時間は、テストなどで学級担任のみで一斉に行っている。本校においては、6年3学級、4年3学級で実施しているの、4時間×6学級分＝24時間、週のほとんどがうまっている状況である。

| 少人数学級のメリット | 少人数学級のデメリット |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">一人一人の考えが把握できる。児童にとっても発言しやすい。集中して学習できる。つまづいている子に指導できる。 | <ul style="list-style-type: none">時間割作成が困難。時間の柔軟性がない。教員どうしの打ち合わせがなかなかできない。評価の仕方の統一をしなければいけない。 |